



建築歴史文化研究室
Architectural History and Culture Lab.
妻木 宣嗣
TSUMAKI, Noritsugu / Associate Professor

厳島神社における歩行行動と視覚行動に関する研究

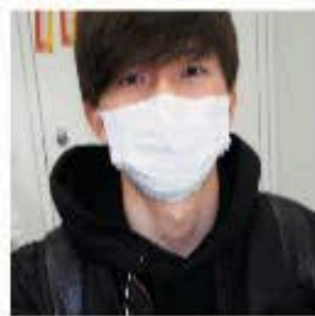
Research on walking and visual behaviors in Itsukushima Shrine

本論文題目は「厳島神社における歩行行動と視覚行動に関する研究」と題し、広島県にある厳島神社における、参拝者の歩行行動と視覚行動について実験を行い、一見、認識することのない造形意図について考察を行ったものである。

結論としては

- ・基本的に、進行方向をみる。
- ・しかし廊と廊とで取り囲まれた海をみたり、海越しの廊を頻繁にみる。
- ・大鳥居が修復中にもかかわらず、大鳥居を方向をみる。

など、空間による、視覚誘導を認めることができた。



嶋崎 伸哉

SHIMAZAKI, Shinya



津田 慎吾

TSUDA, Shingo



松永 歩

MATSUNAGA, Ayumu



松本 龍樹

MATSUMOTO, Tatsuki



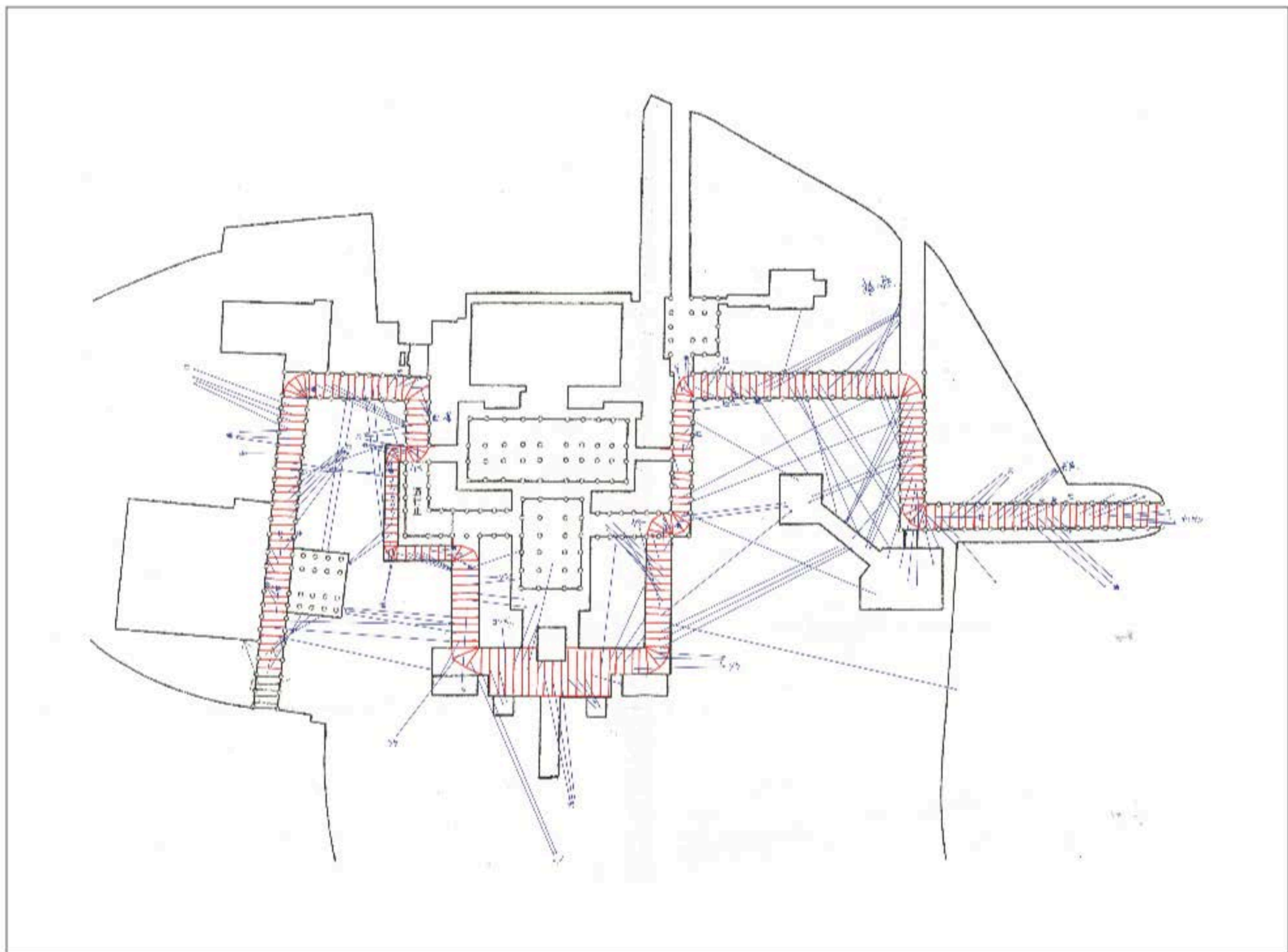
森田 時空

MORITA, Toki



吉田 圭一

YOSHIDA, Keichi



作業対価型滞在システムを利用する滞在者同士の関わりについての研究

Study on relationships among sojourners providing labor in exchange for accommodation and food

作業対価型滞在システムとは滞在者側は「作業」をホスト側は「食・宿泊場所」を提供することで金銭のやり取りをせずに交換が行われるシステムのことである。

私はこのシステムを用いて国内外を旅してきた。偶然集まった数人と数週間ほど生活をともにするなかで、普段都市で生活しては得られないような新しいつながりがいたるところに生まれた。また、それらの場所で体験したことは今も最高の思い出であり、自分自身の人生において大きな影響を与えた。

また、現代はインターネットや移動の自由化によりウルリッヒ・ベックのいう「個人化」がより深刻な問題になっている。

一方で技術が発展し便利なものがたくさん生まれ

た。それゆえに昔の生活に戻ることはできない社会の中で、本来人間が大切にしていた人とのつながりを回復するためにこのシステムを用いてリアルな場でのコミュニケーションを体感することが必要だと考える。

第一章では、作業対価型滞在システムについて実際にあるサービスや先行研究をもとに論じている。

第二章では、先行研究で述べられていなかったこのシステムを利用することで生まれる特徴として、滞在者同士の新しいつながりがある。それが生まれる要因として共同作業、偶然性のある集まり、適切な規模・期間を挙げ、それぞれについて実際の私の体験も交えて分析する。

第三章では、このシステムを用いて滞在者間でのつ

ながり生まれることでその土地に与える影響について考察する。また、近年取り組まれている観光スタイルとの対比を行う。

第四章では、このシステムを用いた拠点をこれから作っていくにあたって必要なことを考察する。



日野 賢一

HINO, Kenichi